



南大谷中だより

町田市立南大谷中学校

2025年1月28日

第9号

教育目標：○自らよく学び創造力のある生徒 ○心豊かで他を思いやる生徒 ○健康でくじけない生徒

主体的な感動（1月8日 始業式の話から）

校長 曾我 泰孝



2025年、令和7年が始まりました。2学期の終業式ではインフルエンザなどによる欠席が多く体育館で対面ではなく放送で行いました。そこで感じたことは、やはり人と人とのコミュニケーションは、目と目を合わせることがとても大切なことだと感じました。今日、このように全校生徒が集まり、顔を合わせて話をできることが幸せだと感じました。

さあ、3学期のスタートです。皆さん、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さんの2024年は感動に満ちた1年でしたか。例えば、「映画を観て感動した」とか「大谷選手のホームランに感動した」とか。「感動」を辞書で調べてみると「物に深く感じて、心を動かすこと」とあります。映画やスポーツ観戦での「感動」は見るということで“受け身”の感動といえます。もちろん、受け身であっても心を動かされ「感動」できることは素晴らしいことです。では、受け身ではない「感動」とはどんなものなのだろうか？ちょっと考えてみてください。

「感動」は、「物に深く感じて、心を動かすこと」でした。「深く」と言われると難しくなりそうですが、「心を動かすこと」ならいろいろな場面で「感動」することがあるのではないのでしょうか。例えば、部活で自己新記録が出せたとか、テストで思ったよりいい点が取れたとか、これらは自分で作り出した“主体的な”感動と言っていいかもしれません。

学校生活を見てみても、体育祭・合唱祭など、学校では様々な行事があります。先生たちは、行事への取組を大切にしています。大切に理由のひとつに、そこに「感動」があるからです。体育祭で見せてくれる皆さん一人一人の真剣な取組や、合唱祭のホールいっぱいに広がる合唱の歌声。皆さんの感想文などを読んでも“主体的な”感動が一人一人の心の中にあることが伝わってきます。

「感動」は、日常の中にたくさんあります。まずは主体的な「感動」の機会をたくさん見つけてください。そして、より大きな目標に向かって真剣に取り組むとき、その姿は周りの人も「感動」させます。トップアスリートたちのように、自分の行動が周りの人を「感動」させることができれば、とても素晴らしいことです。

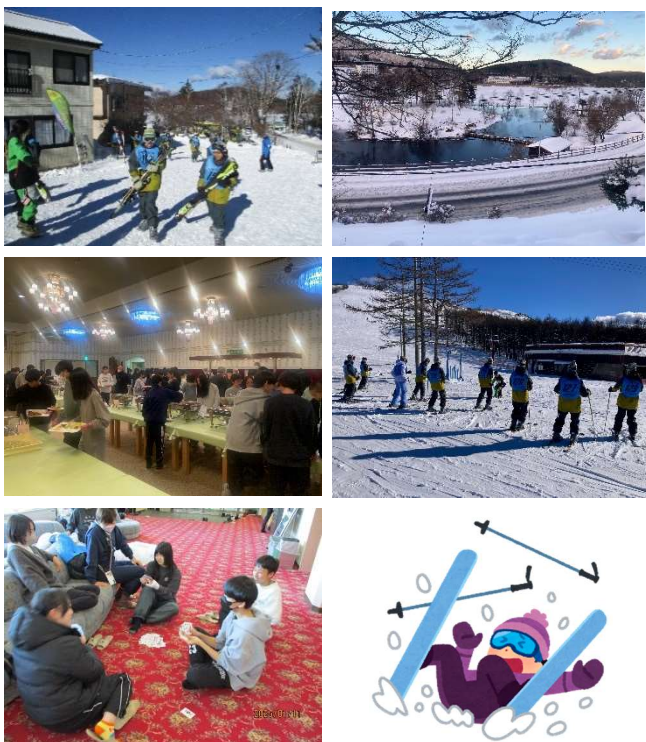
さて、この3学期は仕上げの学期として一人一人が自分自身を振り返る時期です。進級・進学するまでの残り3ヶ月の中で、自分の態度や言葉、行動により、周りの誰かを「感動」させる意気込みをもって毎日の学校生活を過ごして欲しいと思います。学校の楽しさの一つは、学校に集う人がそれぞれ刺激し合い、切磋琢磨することだと思います。仲間から「感動」を1つもらったら、誰かに与えられる。そんな関係ができるといいですね。それでは、今年の活躍を期待しています。



〈裏面に続く〉

1 学年スキー移動教室

1月10日（金）から12日（日）まで1学年スキー移動教室を実施しました。この3日間はとても良い天気で、スキー講習を楽しく行うことができました。今回の移動教室では、雪国での生活とスポーツとしてのスキーを体験すること、そして集団生活でのきまりや友達との関係を深めながら楽しい思い出をつくることができました。



2 学年鎌倉校外学習

1月24日（金）に2学年鎌倉校外学習を実施しました。班のメンバーで旅程を決め、安全に気を付けながら、古都・鎌倉の史跡や文化に触れ、日本文化の素晴らしさを知ることができました。

来年の京都への修学旅行に繋がっていく校外学習になりました。



南大谷中生頑張っています！

<生徒敬称略>

★女子バレーボール部

グラスルーツカップ 第3位

★テニス部

町田市少年・少女テニス大会ダブルス

男子第3位 K. O. T. T.

女子第3位 A. H. Y. T.

★バドミントン

東京都中学生バドミントン冬季大会

男子シングルス 第1位 チーム「Machi 1」

K. K.

★吹奏楽部

東京都吹奏楽新人大会B部門 金賞

東京都中学生アンサンブルコンテスト 金賞

★書道部

全国書道コンクール

特選賞 I. T.

金賞 A. Y. Y. N.

N. M. M. T.

銀賞 K. K. S. K.

R. T. T. S.

I. M. H. Y.

H. W. T. K.

K. S.